

気候ネットワーク支援者交流会 交流タイムメモ

交流タイムでは、活発にご発言いただき、ありがとうございました。各テーマで話された話題を共有いたします。いただいたご意見については事務局内での共有、検討をしていきたいと思っています。

組織・運営：気候ネットワークの団体について、組織運営など全体に関わることについて

- ・支援者を海外からも募ってはどうか。気候ネットワークの海外での知名度は高い。
- ・環境意識の高い人が多いが、実際自分で身近に何ができるかわからないという人が大半。そういう層に向けて情報発信してみてもどうか。

再エネ・電力自由化：再生可能エネルギーや電力自由化等、エネルギー政策に関することについて

- ・電力自由化でどんな風を選んだらいいのかを聞きたい。学習会などがあれば教えてほしい。
- ・京都では選べる会社はあるのか、どこの会社を選べばいいのか。
- ・気候ネットワークのように必要な情報をくれる存在は重要。
- ・いつもほしい情報がもらえるので助かっている。その情報をもとに地域でも話をさせてもらっている。

環境教育：こどもエコライフチャレンジの取り組みや、マレーシアを含めた他地域展開について

- ・10年前にこどもエコライフチャレンジのボランティアとして参加していた。最近の学習会はどんなものなのか。
- ・ボランティアさんでまだ続けられている方はいるのか。
- ・小学校での学習会で使用するスライドについて、問いかけをスライドでいれてみては？
- ・JICA プロジェクト（マレーシア版こどもエコライフチャレンジ事業）の概要について。

脱石炭：脱石炭に向けた国内の取り組み、石炭火力発電所の建設計画への働きかけについて

- ・47基が稼働してしまうとどれぐらいの排出量になるのか。
- ・米国のような規制案が日本にも必要ではないか。
- ・事業者は将来の経営リスクとして考えているのか。
- ・これほどの問題とは社会が受け止めておらず、もっと認識を広く持ってもらう必要がある。

国際交渉：世界の温暖化対策、そこに働きかける NGO の連携に関すること

- ・世界と日本の意識のギャップについて、日本はドイツの30年前。ドイツや西欧は、国のトップが温室効果ガスを減らそうと言っている。
- ・政治家へのアクセスや、排出データの公開状況など、日本はよくない。米国は情報公開が進んでいる。
- ・気候変動による被害の意識も途上国と日本とで違う。
- ・日本企業では、環境担当者はがんばるけど、それがあまり社会で理解・評価されない。
- ・COP3のときと今とで日本の関わり方について。最初は薄かったが、京都議定書が発効するまで（2002～2005年）は、日本の役割が非常に大きかった。第2約束期間は削減義務をもたなくなった。
- ・交渉において、日本は脱石炭にブレーキをかけている。
- ・米国は法整備を進めており、パリ協定の最大の勝者はオバマ大統領と習近平総書記だと言える。